

神戸における外国人居住地域の言語景観

Linguistic Landscapes in the Residential Areas for People with International and Multicultural Backgrounds in Kobe

森下 美和

Miwa Morishita

神戸学院大学

Kobe Gakuin University

miwa@gc.kobegakuin.ac.jp

Abstract

The author has investigated the linguistic landscapes in Kobe and other cities of touristic interests. This paper will give an overview of the findings so far regarding the areas where residents with international and multicultural backgrounds are densely populated in Kobe.

Keywords — Linguistic Landscape, Residential Area, Multilingual Translation

1. はじめに

2020 年初頭以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のために国際的な人の往来が制限され、2019 年まで増え続けていた日本へのインバウンド観光客は激減している。観光目的の入国は引き続き制限されており、JNTO の推計によると、2021 年 4 月の訪日外国人数は 10,900 人で、2019 年 4 月の 293 万人と比較すると 99.6% の減少となっている [1].

著者はこれまで、地元である神戸やその他の観光都市における言語景観について、インバウンド観光支援の視点から、路上の案内表示、店舗内表示、メニュー表などを定期的に調査してきたが、インバウンド観光客の激減による影響は至所に見られる。レストランや店舗で、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するお知らせなどを見かけることが増えたが、多くの場合、日本語表記のみである。多言語表記の看板やメニュー表の上に、日本語表記のみのお知らせが新たに貼られている例なども少なくない。

しかしながら、日本には、インバウンド観光客以外にも、中長期的に滞在あるいは定住している外国人がいる。神戸の場合、全人口に占める外国人居住者の割合が全国平均（約 2%）に比べて高く、2019 年 12 月現在での「在留外国人総数上位 100 自治体」のうち、30 位に中央区（13,553 人）、89 位に長田区（7,143 人）、99 位に東灘区（6,505 人）がそれぞれランクインしている [2]. 2021 年 5 月現在での神戸の「国籍別外国人住民数」は、表 1 の通りである [3].

表 1 神戸の国籍別外国人住民数（2021 年 5 月）

	国籍	人数	%
1	朝鮮・韓国	15,666	32.5
2	中国	12,757	26.5
3	ベトナム	8,061	16.7
4	ネパール	1,570	3.3
5	フィリピン	1,378	2.9
6	台湾	1,223	2.5
7	米国	1,002	2.1
8	インド	892	1.9
9	インドネシア	506	1.1
10	ブラジル	478	1.0
	その他	4,653	9.5
	合計	48,186	100

中央区では、住民の約 10% が外国人であり、その出身国も多岐にわたるため、「多文化共生」を目指した取り組みを行っている。同区内の外国人相談窓口では、英語・中国語以外にも、テレビ電話による通訳サポートにより、韓国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・タガログ語・タイ語・フランス語・ネパール語・ヒンディ語・ロシア語に対応している [4].

2. 神戸における外国人コミュニティ

全人口における外国人居住者の割合が高いためか、神戸では、外国人の生活環境が他の都市に比べて整っているとされている。外国人コミュニティとしては、欧米系（塩屋カントリークラブ、神戸ウィメンズクラブなど）、韓国系（在日本大韓国民団兵庫県地方本部）、朝鮮系（在日本朝鮮人総聯合会兵庫県本部）、中国系（神戸華僑総会）、インド系（インドクラブ、インドソーシャルソサエティなど）、ブラジル系（関西ブラジル人コ

コミュニティ), ベトナム系 (NGO ベトナム in KOBE) などがある。さらに, 兵庫朝鮮学園, 神戸中華同文学校, カナディアンアカデミー, マリスト国際学校, 神戸ドイツ学院などの外国人学校や, 神戸ムスリムモスク (イスラム教), 関帝廟 (仏教/中国), ジェイン寺院 (ジャイナ教/インド), 関西ユダヤ教団 (ユダヤ教), キリスト教会 (カソリック, プロテスタントとも多数), 聖ミカエル大聖堂 (英国国教会) などの宗教施設も充実している [5]。

田村 (2019) によると, 「外国人コミュニティ」は「外国にルーツのある人たちによって構成され, 運営されていること」「構成員のために何らかのサービスが提供されていること」「任意にコミュニティへの参加と退出が可能であること」の 3 つの要件を満たす集団として定義される。つまり, 同じ国の出身者や同じ地域で暮らす外国人で構成されるだけでなく, 実際には同じ宗教や生活背景を持つ外国人が, 地域や出身地を超えてコミュニティを形成することもある [6]。神戸においても, 阪神・淡路大震災をきっかけに, 地域に暮らす日本人と外国人の相互理解や, 外国人コミュニティ間での民族を超えた交流がさかんになっている。コミュニティ放送局「FM わいわい」や「多文化共生センターひょうご」などの多言語・多文化の市民レベルの活動は, その顕著な例だと言える [5]。

3. 外国人居住地域の言語景観

上述のように, 神戸には歴史的に多くの外国人が住んでおり, 地域によって居住者の国籍などに特徴が見られる。これらの居住地域では, 母語, 英語, 日本語, やさしい日本語などのうち, どの言語がどのように使用されているかというのも興味深いテーマである。森下 (2021) は, 神戸の中でも外国人居住者の多い中央区, 兵庫区, 長田区の言語景観調査について報告した [7]。

澤 (2004) によると, 在日インド人は, 1970 年代までの神戸におけるインド系移民 (オールドタイマーズ) と 1980 年代以降の首都圏におけるインド系移民 (ニューカマーズ) に大まかに分類することができる。神戸におけるインド系移民は, 家族単位での居住と定住を特徴としている。そのコミュニティは現在, 繊維・電化製品を扱う Sindhi (ヒンドゥー教徒), 真珠商人の Gujarati (ジャイナ教徒), 雑貨・自動車部品などを扱う Punjabi (シク教徒) の 3 つのグループから形成されている。各グループは, 宗教施設を核とした強固でや

や排他的なネットワークを形成しており, 北野 (中央区) に集住しているのは Gujarati である [8]。インドの連邦公用語はヒンディー語で準公用語は英語であるが, Gujarati 州の公用語は Gujarati であり, また北野に住むインド人は大半が定住者で 2 世や 3 世も多い。北野の言語景観調査でヒンディー語がほとんど見られなかったのは, 彼らが主に英語と日本語を使って生活しているからではないかと推測できる。

輸入食料品店の「北野グロサリーズ」では, インドや中近東の食材を中心に, ムスリムのためのハラール食品も販売している。店内には, 至る所に商品説明などの貼紙が見られるが, 同一内容の多言語併記ではなく, 相互に翻訳されていない複数の言語による記載が混在している。顧客の使用言語がさまざまであること, 特定の商品を購入する顧客の傾向などが見て取れる。

インド人やユダヤ人のコミュニティがある北野では, 特定のコミュニティ向けの言語表記はほとんど見られなかった。コミュニティ内で情報共有がなされており, それ以外の情報がなくても日常生活が完結する, 日常会話レベルの英語や日本語ができる, などがその理由として考えられる。北野は異人館で有名な人気の観光スポットではあるが, 同時に外国人が多く住む地域でもあるため, 誰に何を伝えるか, その目的によって言語景観も異なってくるだろう。同じ中央区でも, 中華街のある南京町には, 外国語表記の看板はなかったが, 主に日本人観光客をターゲットにしているためだと考えられる。

兵庫区や長田区には, ベトナム人や韓国人が多く, それぞれ教会や寺院なども存在する。中央区と異なり, これらの地域には, ノエビアスタジアムなどの一部施設を除いては観光スポットと言える場所はほとんどないため, 言語景観もほぼ住民向けのものであると考えられる。実際, 兵庫区でベトナム人が経営するスーパーの店内には, ベトナム語表記しかなく, 商品の内容が分かりにくい。中央区のインド人やユダヤ人と違い, 兵庫区や長田区のベトナム人の多くはニューカマーであり, 母語のみかやさしい日本語しか理解できない可能性が高いため, それが言語景観に反映していると言えるだろう。

4. まとめと今後の展望

神戸の外国人居住地域での調査では, 中央区に外国語表記が少なかった理由として, インバウンド観光客をターゲットにしていない, 外国語表記を必要として

いない人が多い, などの可能性が示されたが, これらを明らかにするためにはさらなる調査が必要である。

磯野 (2020) は, 海外の言語景観で見られる日本語のほとんどが日本語非母語話者によるもので, 特徴的に「間違えている日本語」「不自然・不適切な日本語」であるが, その原因を考え, 正しく直す練習は, 日本語学習者にとって有用な学習手段になると述べている [9]。日本の言語景観で見られる英語についても, 日本の英語学習者にとってほぼ同様のことが言える。本研究における言語景観調査では, 言語のみならず歴史や文化についても深く学ぶ機会が得られる。ゼミ活動とも連動させながら, コロナ禍の現在だからこそ, 日本にある外国に目を向けて調査を続けていく予定である。

謝辞

本研究は, 科研費基盤研究(C): 課題番号 20K00822『英語教育に生かす言語景観研究: 誤用分析と異文化コミュニケーションの観点から』(研究代表者: 森下美和), 科研費基盤研究(C): 課題番号 18K11849『ネット社会におけるインバウンド観光客・定住者を意識した文化伝達の言語表現』(研究代表者: 平松裕子), 科研費基盤研究(B): 課題番号 17H02249『ICT による観光資源開発支援: 心理学的効果を応用した期待感向上』(研究代表者: 伊藤篤) の助成を受けている。

参考文献

- [1] JTB 総合研究所 (2021) 「インバウンド訪日外国人動向」
<https://www.tourism.jp/tourism-database/stats/inbound/>
- [2] e-Stat (2020) 「統計で見る日本」
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20190&month=24101212&tclass1=000001060399&tclass2val=0>
- [3] 神戸市役所 (2021) 「国籍別外国人住民数」
<https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/shise/toke/toukei/jinkou/kokusekibetsu.html>
- [4] KOBE 中央区 (2019) 「外国人相談窓口」
https://www.city.kobe.lg.jp/documents/24046/soudanmadoguti_1.pdf
- [5] 神戸市企画調整局企画調整部総合計画課 (2004) 「復興の総括・検証」神戸: 神戸市復興・活性化推進懇話会
- [6] 田村太郎 (2019) 「外国人コミュニティとの共生: これまでの経緯とこれからの期待」日本財団 Web マガジン「みらい」 Vol. 3
https://www.hitachi-zaidan.org/mirai/03/paper/pdf/Tamura_treatise.pdf
- [7] 森下美和 (2021) 「観光都市の言語景観: 神戸から海外へ」電子情報通信学会『信学技報』, vol. 120, no. 427, TL2020-22, 24-27.
- [8] 澤宗則 (2004) 「グローバリゼーション下のディアスポ

ラ: 在日インド人のネットワークとコミュニティ」平成 13 年度～平成 15 年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (1)) 研究成果報告書
[9] 磯野英治 (2020) 「言語景観から学ぶ日本語」大修館書店